

『VIEW next』高校版・2023年度「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」授業デザインシート

【教科・科目】	芸術科(音楽)・音楽Ⅰ
【分野・題材】	歌唱「歌よ、愛を語れ!」
【主要な教材(作品)】	Caro mio ben(ジョルダニー作曲) Vaga luna, che inargenti(ベツリーニ作曲) 霧と話した(鎌田忠良作詞/中田喜直作曲) Je te veux(バロリ作詞/サティ作曲) Ich liebe dich(ヘロゼー作詞/ベートーヴェン作曲)
【設定時間】	1時間目/全6時間構成
【題材の目標】	(1) さまざまな国の「ラブソング」の曲想と音楽の構造や歌詞、言葉の特性と曲理に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付ける。 (2) さまざまな国の「ラブソング」の旋律を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感懐したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。 (3) さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組みるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

時数	学習内容	生徒の生徒の特性を踏まえた各時間における教育目標(身に付けさせたい資質・能力)	上記の資質・能力の「学力の3要素」への分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の「評価方法」(指導に生かす評価:○、記録に誘う評価:◎)
					主体的な学び	対話的な学び(教師による場づくりへの配慮)	深い学び(教師による思考の活性化・顕化への配慮)	
1 本時	歌詞の内容と音楽の特徴から、「愛」をテーマにした歌の表現について考えてみよう!① ・愛を語る歌曲「Caro mio ben」との出会い ・授業の「3つのゴール」と学習活動のアウトラインの確認 ・題材における「問い」 ・身近な「ラブソング」の表現 ・さまざまな国の「ラブソング」の表現 ・歌い方や伴奏(アレンジ)の違いによる印象の変化	○さまざまな国の「ラブソング」の曲想と音楽の構造や歌詞、言葉の特性と曲理に応じた発声との関わりについて理解する。(知識及び技能) ○さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組む。(学びに向かう力・人間性等)	知識 多様性 協働性	①『Caro mio ben.』の「核となるフレーズ」を聴いて、歌い方やメロディの内容から、楽曲が描くテーマについて推測する。 ②『Caro mio ben.』の歌詞の和訳と口語訳をもとに、楽曲やそのテーマに対するイメージを膨らませる。 ③学習ガイドブックを活用して、授業の「3つのゴール」と学習活動のアウトラインを全体で確認する。 ④題材における問いについて、現時点の考えを仲間と交流する。 ⑤人はなぜ歌で「愛」を表現するのだろうか? ⑥身近な「ラブソング」の表現について、歌詞の内容と音楽の特徴から探る。 ⑦さまざまな国の「ラブソング」の表現について、歌詞の内容と音楽の特徴から探る。 ⑧歌い方や伴奏(アレンジ)の違いによる印象(イメージ)の変化を感じ取る。 ⑨本時の学習内容を歌の表現の観点から振り返る。	②歌詞の口語訳について、現代におけるメッセージアプリでのやり取りを例示し、恋愛に関わるテーマの意識付けを促す。 ③同じ楽曲でも、歌手の歌い方や編曲によって、歌詞の印象が異なることに触れ、旋律や音色の違いが生み出す音楽表現の多様性について、考えを共有する場を設け、対話的な学びを促す。 ④身近な「ラブソング」を聴き取るとともに、様々な国の「ラブソング」の表現について、考えを共有する場を設け、対話的な学びを促す。	④・⑤・⑥「核となるフレーズ」の歌詞が描く心の方向性を考えるときに、ボーカルの歌声(歌い方)や伴奏、メロディと音楽の特徴を挙げて、関連付けることを促すことで、歌い手や作曲家がどのように「核となるフレーズ」を表現しているか、自分なりの解釈を深められるようにする。また、そのために、イメージの方向性を軸でワークシートに整理させながら進めていく。	◎さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組んでいるか、各学習活動における生徒の発音や取り組みの様子から、【主体的に学習に取り組む態度】の観点で評価する。 ◎歌詞の内容と音楽の特徴から探り、自分なりの「ラブソング」に対する解釈を深めているか、ワークシートの記述から、【知識・技能※】の観点で評価する。 ※本時においては、特に「知識」に注目して評価する。	
2	歌詞の内容と音楽の特徴から、「愛」をテーマにした歌の表現について考えてみよう!② ・過去から伝わる様々な国の「名ラブソング」の表現 ・愛を語る歌曲「Caro mio ben.」の歌詞と表現 ・選択課題の設定と活動の進め方	○過去から伝わる様々な国の「名ラブソング」の表現 ・愛を語る歌曲「Caro mio ben.」の歌詞と表現 ・選択課題の設定と活動の進め方	知識 思考力	①過去から伝わる様々な国の「名ラブソング」の表現について、言葉や歌詞と歌唱表現及び技法の特徴との関わりから考える。 ②イタリヤ歌曲「Vaga luna, che inargenti」 ③日本歌曲「霧と話した」 ④フランス歌曲「Je te veux」 ⑤ドイツ歌曲「Ich liebe dich」 ⑥歌詞の内容と旋律の関わりを注視して、『Caro mio ben.』を歌唱する。 ⑦グループで歌唱する「名ラブソング」を2希望まで選び、課題の進め方について確認する。	①前時の学習内容と結びつけながら考えさせることにより、各国の特色や、時代の違いによる歌唱表現の「不易流行」に着目させ、学習内容に対する興味・関心を促す。 ③様々な国の「名ラブソング」について、各歌詞の内容や旋律の特徴に着目しながら、イメージを共有する場を設け、対話的な学びを促す。	①前時の学習内容を踏まえて、「核となるフレーズ」を保持して名ラブソングを聴取し、言葉の発音や歌詞と歌唱表現及び技法の特徴との関わりを観点からワークシートに整理させることで、思考の深化を促す。	◎歌詞の内容と音楽の特徴から探り、自分なりの「ラブソング」に対する解釈を深めているか、ワークシートの記述から、【知識・技能※】の観点で評価する。 ※本時においては、特に「知識」に注目して評価する。	
3	グループで表現を工夫しながら、名ラブソングの「核となるフレーズ」を歌ってみよう!	○創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付ける。(知識及び技能)	技能 思考力 判断力 表現力 協働性	①歌詞の内容と旋律の関わりを注視して、『Caro mio ben.』を歌唱する。 ②名ラブソングの歌唱表現について「脚本(スクリプト)シート」に整理しながら、グループで歌唱の活動に取り組む。 ③歌詞から、「核となるフレーズ」の文または連を抜き出す。 ④言葉と旋律(リズム)に付随する強弱を含むの関わりに着目し、曲にふさわしい発声、言葉の発音などについて、思いや意図をもつ。 ⑤①～④をもとに、グループで表現の方向性を決めて歌唱し、成果と課題を確認する。 ⑥最終発表会に向けて、歌唱と解説のハイラールを行う。	②名ラブソングの歌唱表現について、思いや意図を持つことに苦手意識がある生徒やグループに対して、教師からヒントや例示をしたり、直接関わりかけたりしていくことで、グループ内での対話的な学びを促す。また、「脚本(スクリプト)シート」に整理する視点が不十分であったり、欠けていたりするグループに対して、教師から適宜助言や他のグループの好例を示すことで、グループ内での対話的な学びを促す。	②1～2時間目で得た学びをもとに、様々な国の名ラブソングにおける言葉や歌詞と歌唱表現及び技法の特徴を生かして歌唱することができるよう、参考にしたラブソングの歌い方や表現について「脚本(スクリプト)シート」に位置付け、生徒の思考を促す。 ③「なぜこのフレーズが聴かせどころなのか」について、直接的に説明しなくても、歌詞の大意や実際の歌唱表現から演奏を聴く仲間と広わるようにすることを教師からアドバイスし、思いや意図を明確にさせる。	◎さまざまな国の「ラブソング」の旋律を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感懐したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。(思考力・判断力・表現力等)	
4	・愛を語る歌曲「Caro mio ben.」の歌詞と表現 <グループ(2～4名)> ・歌詞と旋律の視点による「核となるフレーズ」の選択 ・歌詞とその言葉の解釈とシチュエーションの想定 When/Where/Who/How ・歌唱表現の探究(世界各地の声楽家による歌唱、表現方法) ・脚本(スクリプト)シートを用いた創意工夫や思考の整理	○さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。(学びに向かう力・人間性等)	主体性 思考力 多様性	①授業の「3つのゴール」と学習活動のアウトラインを全体で再確認する。 ②最終発表会の流れと、相互評価の観点全体を確認する。 ③脚本(スクリプト)シートを基に曲にふさわしい歌い方をしているか ④どのようにラブソングを歌うかという思いが感じ取れる演奏であるか ⑤(各段階評価 A～E) ⑥「脚本(スクリプト)シート」をもとに、歌詞のどのフレーズに着目して歌うか、参考にした言葉などについての説明を交えながら、グループごとに歌唱し、相互に評価し合う。 ⑦題材での学びを経て、題材における「問い」について個人で思考し、ワークシートに記す。 ⑧学音を振り返り、身に付けた資質・能力の観点から自己評価する。	⑤「学習ガイドブック」を活用して、題材で取り組んだ学習活動や、学んだこと・印象に残っていること、今後生かしたい場面などについて無難にとまど、自分自身の成長や変容を振り返ることを促す。	③発表を聴いている生徒は、自分たちの演奏と最終発表会との違いを捉えることで、深い学びの実現を促す。	◎さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養っているか、相互評価のコメントの状況や、題材における「問い」に対する考えの記述(ワークシート)を基に、【主体的に学習に取り組む態度】の観点で評価する。 ◎創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付けているかについて、最終発表会の歌唱発表から、【知識・技能※】を評価する。 ※本時においては、特に「技能」に注目して評価する。	
5	「愛」をテーマにした歌曲を発表して、歌い方や表現の工夫を互いに評価し合おう! ・「歌よ、愛を語れ!」最終発表会(コンサート形式) ・発表の相互評価 ・題材全体の振り返り ・題材を責め「問い」に対する考えと身に付けた資質・能力の整理	○さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。(学びに向かう力・人間性等)	主体性 思考力 多様性	①授業の「3つのゴール」と学習活動のアウトラインを全体で再確認する。 ②最終発表会の流れと、相互評価の観点全体を確認する。 ③脚本(スクリプト)シートを基に曲にふさわしい歌い方をしているか ④どのようにラブソングを歌うかという思いが感じ取れる演奏であるか ⑤(各段階評価 A～E) ⑥「脚本(スクリプト)シート」をもとに、歌詞のどのフレーズに着目して歌うか、参考にした言葉などについての説明を交えながら、グループごとに歌唱し、相互に評価し合う。 ⑦題材での学びを経て、題材における「問い」について個人で思考し、ワークシートに記す。 ⑧学音を振り返り、身に付けた資質・能力の観点から自己評価する。	⑤「学習ガイドブック」を活用して、題材で取り組んだ学習活動や、学んだこと・印象に残っていること、今後生かしたい場面などについて無難にとまど、自分自身の成長や変容を振り返ることを促す。	③発表を聴いている生徒は、自分たちの演奏と最終発表会との違いを捉えることで、深い学びの実現を促す。	◎さまざまな国の「ラブソング」の旋律と言葉との関わりに関心をもち、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養っているか、相互評価のコメントの状況や、題材における「問い」に対する考えの記述(ワークシート)を基に、【主体的に学習に取り組む態度】の観点で評価する。 ◎創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付けているかについて、最終発表会の歌唱発表から、【知識・技能※】を評価する。 ※本時においては、特に「技能」に注目して評価する。	